

東京 北海道びらとり会便り



「北海道びらとり会便り」第13号では、2023年度総会の報告、平取町教育委員会教育長松田拓美さんからの特別寄稿「平取町ので育行政の現状と今後について」、荷葉出身の木下功さんご執筆の故郷の思い出「私の平取での思い出」、6月大宮で開催された平取町の物産展の報告、11月に都内で開催される平取町の物産展の開催案内などを掲載しました。

「北海道びらとり会」は、関東圏在住者で平取町出身者及び平取町にゆかりのある方の交流と親睦を図るとともに平取町の振興発展に寄与することを目的に設立された会で、北海道に平取町という町が存在することをわかってもらおうという思いを込めて「北海道びらとり会」と命名しました。

撮影場所：「二風谷の水田」平取に飛来した丹頂鶴
写真提供：びらとり自然ガイドクラブ「アオトラ」
発行：北海道びらとり会
編集：廿日岩 久典 泉 典子
発行日：2023年10月18日

2023年度総会

2023年度総会は、2023年6月17日(土)中央区銀座の銀座POP ROADで開催されました。2020、2021、2022年と3年連続、開催出来ませんでした。ようやく開催され久しぶりの皆様との再会でした。これまでの総会と同様に天候に恵まれた開催となりました。総会には、会員22名と来賓として平取町からは遠藤桂一町長を含む6名の計28名が出席しました。

式次第は以下のとおりです。

- 会長挨拶 廿日岩久典
- 来賓挨拶 平取町長 遠藤 桂一様
- 来賓挨拶 平取町議会議長 高山 修様
- 2019年～2023年度会計報告
- 2019年～2023年度監査報告
- 北海道びらとり会規約改正
- 2023年度役員改選
- 2023年度活動計画

平取町からの出席者は以下のとおりです。

- 町長 遠藤 桂一様
- 町議会議長 高山 修様
- びらとり農業協同組合 代表理事組合長仲山 浩様
- 平取町商工会副会長 小林 史明様
- 観光商工課長 藤谷 直樹様
- 同 広報広聴係長 福士 美鶴様



2023年11月開催の平取町の物産展のお知らせ なまらいいっしょ北海道フェア

振内町の「じゃんけんぽん」さんが「びらとり和牛」のハンバーグと二風谷にある「ムーブ」さんが「びらとりハム」を持って出店します。今回も平取町商工会のご厚意により「北海道びらとり会便り13号」持参の方に「びらとり和牛のハンバーグ」か「びらとりハムのソーセージ」のいずれか一つを先着20名様にプレゼントが用意されています。デパートで開催されている北海道物産展とは趣が大きく異なる物産展です。手作り感満載で、どことなく故郷を思い出させる雰囲気があります。会員の皆様、ぜひお出かけください。そして、平取の方から町の様子などをお聞きするなと交流を深めてください。

日時：2023年11月11日(土) 10:00～18:00
11月12日(日) 10:00～18:00

場所：三軒茶屋ふれあい広場（世田谷区三軒茶屋銀座商店街）
世田谷区太子堂 2-17-1
三軒茶屋駅北口徒歩3分（東急田園都市線・東京メトロ半蔵門線）

新しく二風谷アイヌ工芸品が返礼品に加わりました。

〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町 28 番地

平取町役場 観光商工課 観光商工係

TEL:01457-3-7703

FAX:01457-2-2277

E-mail:b.furusato@town.biratori.hokkaido.jp



皆様の投稿をお待ちしております

会員の皆様からの投稿をお待ちしています。便りを会員相互の情報交換の場としてもご利用下さい。内容は自由、字数、締め切り期日は問いません。宛先（廿日岩 久典）は以下のとおりです。

郵送の場合：〒247-0056 鎌倉市大船5丁目 2-26-316

メールの場合：h-hisa@rg8.so-net.ne.jp

連絡先：090-3246-4858

編集後記

2019年以来の総会開催でした。やはりリアルでの会合はいいですね。コロナ渦を経験して世の中の様子が少し変わり、それに合わせた生活を余儀なくされている一面もあります。早く慣れなければと藻掻いている自分がいます。

松田 教育長にはご多忙の所、特別寄稿頂きました。私の母校である振内小学校の在校生は28名、振内中学校に至っては18名とその数字を見て愕然としました。我が母校は今後どうなるのでしょうか。これが現実であると頭では解っているのですが。

木下さんには、懇親会の席上で執筆をお願いしました。昔の平取の様子が目に浮かびます。渡船、馬そり、50ccのバイク、あきあじなど懐かしく当時を思い出しました

びらとり自然ガイドクラブ「アオトラ」から、平取に飛来した丹頂鶴の写真を提供していただきました。平取に丹頂鶴がと驚きました。ありがとうございました。（廿日岩）

2023年6月に開催された平取町の物産展 二風谷アイヌ工芸品とびらとりの魅力

2023年6月20～25日にさいたま市の大宮駅東口にある「まるまるひがしにほん」で開催されました。アイヌ工芸品の他、「びらとりトマト」や「びらとり和牛」も販売されていました。また、工芸家によるアイヌ工芸品の実演も行われていました。大変な盛況で、人をかき分けて進まないとい目的のところまでいけない程の人混みで、反響は大きかったのではないかと思います。



ふるさと納税のお願い

私達は平取町への応援の一環として、平取町への「ふるさと納税」を推進しています。平取町のホームページ「暮らし・手続」にアクセスするか、又は下記にお問い合わせください。

皆様のご協力をお願いします。

会 員 募 集

新規会員の勧誘をお願いします。

以下にご連絡をお願いします。

・平取町役場 観光商工課 広報広聴係

〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町 28 番地

TEL：01457-3-7703（直通）

FAX：01457-2-2277

koho.kocho@town.biratori.lg.jp

・北海道びらとり会会長 廿日岩 久典

〒247-0056 鎌倉市大船5丁目 2-26-316

携帯 090-3246-4858

h-hisa@rg8.so-net.ne.jp

・北海道びらとり会事務局長 須藤 孝夫

〒344-0038 埼玉県春日部市大沼 4-43-2-306

TEL/FAX：048-735-6329

携帯 090-8344-3938

sudo2689@lagoon.ocn.ne.jp

・イオル文化交流センター

アイヌ文化の担い手育成やアイヌ民族の伝統的生活空間イオル再生事業の活動拠点となる「イオル文化交流センター」が2022年11月に二風谷に完成。アイヌ文化を発信する新たな拠点となる。

・アイヌ文化の振興（工芸品のブランド化ほか）

今年の4月15、16の両日に札幌市で開催された先進7カ国（G7）気候・エネルギー・環境相会議に参加した各大臣らに、二風谷民芸組合が制作した伝統的なアイヌ工芸品「二風谷アットウシ」（樹皮の織物）と「二風谷イタ」（盆）が贈られました。この2品は道内で唯一経済産業省より伝統的工芸品として指定されている。

・認定こども園の開設

本町にある「パチラー保育園」が、移転・新築し、幼稚園の機能を併設した「認定こども園 パチラー保育園」として今年4月からスタートを切った。定員を60人から83人に増やしたほか、未就園児が園児と一緒に遊べる子育て支援も開始した。

・スマートスピーカー事業開始

一人暮らしの高齢者をAI＝人工知能を搭載したスピーカーを活用して見守る取り組みが道内で初めて平取町で6月に始まった。75歳以上の一人暮らしの高齢者の自宅にAIスピーカーを設置、決められた時間にその日の体調をたずね、応答がなかった場合には、担当者が直接訪問するなどして対応する。

・平取町産酒米使用「涼燗（すずらん）販売
平取町産酒造好適米「吟風」を100％使用した純米酒。2021年5月発売、冷酒にしてもお燗にしても美味しいお酒とのこと。懇親会で町より差し入れていただき好評でした。

・日高山脈襟裳国定公園の国立公園化
日高山脈襟裳国定公園及び周辺地域について、2024年中の国立公園指定に向けて手続きを進めていくことになった（2023年6月）。

・平取高等学校の魅力化
生徒数減少で地元から道立高校がなくなること防ぐため、2024年度入試から道外からも受験可能となった。

次いで、議事に入り、以下の審議事項について、承認されました。
紙面の関係上、総会資料の提示を省略します。ご了承をお願いします。

- ・2019年～2023年度会計報告
 - ・2019年～2023年度監査報告
 - ・北海道びらとり会規約改正
 - ・2023年度役員改選
 - ・2023年度活動計画
- 任期満了に伴う役員改選が行われ、以下の方が選任されました。今後2年間この役員構成で本会は運営されます。皆様のご協力をお願いします。

会長 廿日岩 久典（振内町）
副会長 高橋 直人（豊糠）
安田 忍（岩知志）
幹事 清水 洋司（川向）
山口 繁（本町）
坂本 貢一（荷菜）
会計 山内 銘宮子（西東京市）
監査 佐藤 福一（荷菜）
鹿戸 春二（小平）
事務局長 須藤 孝夫（岩知志）
高橋 直人（豊糠）副会長の閉会の挨拶に続き、参加者全員で記念撮影を行い、2023年度総会は終了しました。

懇親会

懇親会は、同じ会場で総会に出席された全員が参加し、総会に引き続き高橋 直人副会長の司会で進められました。安田 忍副会長（岩知志）の閉会の挨拶で会は始まり、仲山 浩びらとり農業協同組合代表 理事組合長並びに小林 史明平取町商工

会副会長のご来賓挨拶を頂き、山内銘宮子幹事（西東京市）発声による乾杯で、宴会が始まりました。
今年も恒例の参加者全員による自己紹介がありました。お一人お一人のコメントに新しい発見があり、そのコメントを基に話題が沸騰、やはり故郷を同じくする人達の集まりで共通の話題、そして今年は、4年ぶりの再会も重なり話が尽きず大変な盛り上がりを見せました。この雰囲気と同郷の多くの首都圏在住の皆様にも共有して頂き、平取町への応援に結び付けたいと思います。

話は尽きなかったのですが時間となり、山口繁（本町）幹事の三本締めで、懇親会は盛会のうちにお開きとなりました。来年も皆様のご参加をお待ちしています。



故郷の思い出

私の平取での思い出

木下 功（荷菜）

私は、平取町荷菜出身で、木下功（きのしたいさお）と申します。現在、埼玉県に在住し、63歳になりました。高校卒業後、翌日には平取を離れ、気づけば、45年が経ち、あっという間に時が過ぎた感じです。

私は、高校卒業までしか平取にいませんでしたので、遠い記憶を思い出して、ほんの少し私の平取での思い出を書かせていただきたいと思います。幼少期、たぶん3～4歳の記憶ですが、荷菜のつり橋ができる前だと思いますが、川を渡るために対岸までワイヤーが引かれており、小さな舟でよく渡っていた記憶があります。その渡船の時は、とても怖くて、いつも体が固まり、川を渡っていたことが強く印象に残っています。今の沙流川は、当時より浅く感じますが、昔は、とても大きな川であったと心に残っています。

また、冬になると大雪の時は、本家のじいちゃんが、馬ぞりを出してくれて、学校まで送ってもらいました。そのソリには、地域の子供を何人も乗せて、よく学校まで送ってくれたことを懐かしく思い出します。

私の家族の思い出ですが、5～6歳の頃、荷菜から本町まで50ccのカブ（バイク）で、親父とおふくろと自分と妹の4人で、農協前に出ていた屋台のみそラーメンを食べに行っていました。親父の運転で、自分は、前側に乗り、

後ろにおふくろが乗って、妹はおんぶされて1台のバイクで、家族4人でラーメンを食べに行ったことを懐かしく思い出します。

高校の頃は、農業の手伝いをよくしていました。春には、田植え、五月のゴールデンウィークは、ビートの定植作業、除草剤散布作業、夏は、牧草刈り取り、秋には、稲刈り、そして稲のさがけと学校が終わってから、よく農業の手伝いをしていました。川向の田んぼの仕事帰りには、荷菜のつり橋を渡る時に川を見るとたくさんのおきあじ（サケ）が遡上していました。当時は、胴長を着て、網でおきあじを取っていました。今では、絶対にダメなことですが、当時は、そうやっておきあじをよく取っていたのを思い出します。

現在、平取の実家には、おふくろと弟が暮らしております。おふくろは、86歳と高齢になりましたが、毎日のように、電話で近況報告し、親孝行に励んでおります。今年の11月には、平取に里帰りする予定です。その時は、お世話になりました「北海道びらとり会」の事務局の方々や役場の方々にお礼に伺いたいと思っています。おふくろは、歩くのが困難になってきているのですが、一緒に美味しいラーメンでも食べに行きたいと思っています。
令和5年9月29日

平取町教育委員会 教育長 松田 拓美さんからの特別寄稿文

平取町教育委員会 教育長 松田 拓美さんから「平取町の教育行政の現状と今後について」と題して特別寄稿していただきました。

松田 拓美さんは、教頭として平取中学校に3年間、校長として振内中学校に3年間勤務、1年前に新冠中学校校長で定年退職し、この4月に教育長に就任されました。

毎回の役員会や懇親会では、出身の学校がなくなった、統合されたなど話題がつきません。一抹の寂しさはありますが、人口減少による廃校や学校統合など、現実的な対応は待ったなしの状況かと思い、平取町の教育行政や様子を寄稿していただきたく執筆をお願いしました。

平取町の教育行政の現状と今後について

平取町教育委員会 教育長 松田 拓美

北海道びらとり会の皆様方におかれては益々のご健勝のこととお喜び申し上げます。

北海道びらとり会便り発行に際し、廿日岩会長より「平取町の教育行政の現状と今後について」について、執筆の依頼がありましたのでお伝えいたします。

現在、平取町の学校は、紫雲古津小学校（35名）、平取小学校（105名）、二風谷小学校（16名）、貫気別小学校（24名）、振内小学校（28名）、平取中学校（103名）、振内中学校（18名）の7校となっており、今後も児童生徒の減少が続くことから、これからの学校のあり方が課題となり、保護者や住民との意見交換会が行われている地区もあります。また、平取高校も今年度の入学者数が11名で全校生徒37名となっており、高校存続の危機に直面しており、町長をはじめ役場担当者・学校関係者・地域住民・外部学識者等を委員とした「高校の魅力化を図り存続させる会」を立ち上げ、住民との対話フォーラムなどを行いながら、「公設塾」の設置、新しい科目「アイヌ文化」を導入し、地域に根付いた特色あるカリキュラムの魅力で全国から生徒を集めるなど、町として平取高校の存続を目指した施策を展開しています。

コロナ禍の学校では、子ども達は不安を抱え、マスク着用などや行動を制限された学校生活を送っていましたが、現在の学校では感染対策を講じながらも、学校生活や行事の内容もコロナ以前に戻りつつあり、子ども達も意欲的に取り組んでいます。

学校で行われている授業の内容や形態は、ここ数年で大きく変化しました。教師が一方向的に板書し説明していた形態から、一人一台の端末が整備され、ICTや電子教科書を活用した授業が展開され、児童生徒が主体となり、対話的で深い学びに向けた授業となっています。

アイヌ文化の振興に関わっては、今年11月から来年4月まで、外務省が所管するジャパンハウスロンドンにおいて、二風谷でのアイヌ文化継承とそれに関わる人々を英国に紹介するイベント（舞踏・アイヌ語・料理・工芸など）で、アイヌ文化保存会・アイヌ語教室・民芸組合36名の英国への派遣が予定されており、新たな取り組みも行われています。

以上、平取町教育行政に関わっては、人口減少を要因とする課題が多くありますが、皆様の故郷である平取町の次世代を担う子ども達はもとより、全ての町民が笑顔で学ぶことができる町づくりに向けて、誠心誠意、全力を尽くしてまいりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

